

[P-1-053~P-1-059] ポスター：水処理・洗浄 6

2014 年 6 月 13 日 (金) 10:30-11:45 ポスター会場 1 (神戸国際展示場 1 号館 2 階)

座長) 柴田 昌典:1、座長) 西 宏行:2

1:光寿会リハビリテーション病院、2:因島総合病院

P-1-056

洗浄剤変更による効果の検討

【演者】 酒出 篤弥:1

【著者】 酒出 篤弥:1、谷 亮太:1、太田 委住:1、西山 和芳:1、藤井 夕貴:1、近藤 浩史:1、小川 正博:1、沖島 正幸:1、井上 宏隆:1、南 良 義和:1、兵藤 好行:1、中前 健二:1

1:豊田厚生病院 臨床工学技術科

【目的】 近年、透析膜の進歩により良質な透析液及び装置・配管内における清浄化は必要不可欠である。今回、装置・配管内の更なる清浄化を目的に洗浄剤・方法を変更したので効果及び装置内の影響を検討した。

【方法】 塩素系洗浄剤はオートラックからエー・エヌテック社製クリーン PL (PL) へ変更した。また、洗浄方法はシングルパス方式から夜間滞留方式へ変更した。洗浄効果の評価は装置末端における生物学的検査 (生菌数・E T 値) を実施した。一方、装置内の部材影響はカスケードポンプ内部の錆腐食状態、部材劣化を目視等で評価した。

【結果・考察】 PL へ変更後も装置末端の生物学的検査値の変動は認められなかった。また、PL には金属腐食抑制作用があり、カスケードポンプ内部の腐食等も認められなかった。短期間の使用結果ではあるが、PL は従来の塩素系洗浄剤と同等の洗浄効果、及び金属腐食抑制効果も期待でき、長期使用では部材劣化の軽減に繋がり経済効果も生まれると考えられた。

